



寄付先を子どもたちが決める
— Learning by Givingプロジェクト—

-あなたの寄付先を子どもたちが決める。
その寄付に3倍のチカラを-プロジェクト概要

Learning by Giving-あなたの寄付先を子どもたちが決める。その寄付に3倍のチカラを

Learning by Givingプログラムは、ご寄付者からの寄付を原資に、①子どもたちが寄付について体験的に学び、②NPOについて調べて、③最終的に寄付を行うところまでを提供します。通常、総合的な探求の時間や選択科目などの教科時間の中で、展開されます。今回は、以下の3つのパターンでの提供していきます。

1. 学校の部活動・選択科目ないし希望者で行うパターン

ボランティア部などの普段から寄付、ボランティアなど社会貢献活動を行っている部活や社会貢献に関する選択科目の授業や有志の希望者で展開する方法です。通常、10~30名程度の規模で行われます。寄付金は10~30万円程度を想定しています。顧問ないし担当教諭がお申込み頂き、数回の打ち合わせを経て提供していきます。結果を学年や校内全体に向けて発表するケースも有り得ます。

2. 社会教育団体で行うパターン

ボーイスカウトや青少年赤十字活動、社会福祉協議会など社会教育団体と一緒に実施させて頂く方法です。それぞれの団体と協議し展開していきます。10~50名程度。寄付金は10~30万円程度を想定。各団体の責任者がお申込み頂き、数回の打ち合わせを経て提供していきます。

3. 日本ファンドレイジング協会が主催するパターン

日本ファンドレイジング協会が主催するパターンです。オンライン開催とし、弊協会が指定するいくつかの日程から選定して頂き、ご参加頂きます。10~30名程度の規模で、寄付金は10~30万円程度。参加学齢にバラツキが生じる可能性があるため、なるべく近い学齢で調整すると共に、アイスブレイクのワークの時間を割くようにします。

社会貢献教育プログラム受講生徒の感想（中高生）

今日学んだことをこれから何かできるか考えて過ご
していきたいです。応援できることがたくさんあるから
応援していきたいと思います。世界のことも知る
ことができました。今日はいろいろなことを教えてくれて
本当にありがとうございました。

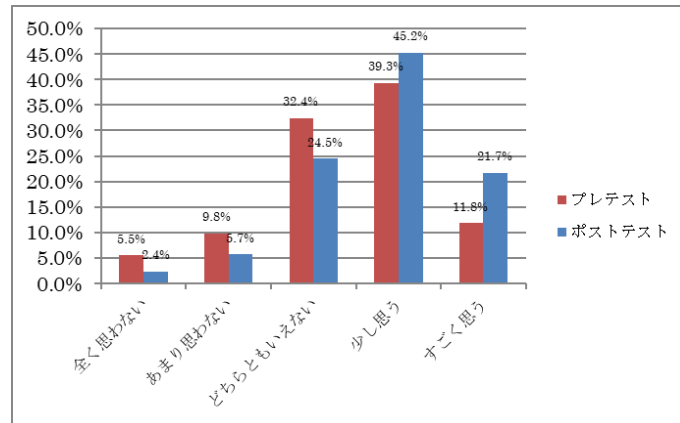
自分達に NPO をより身近なものにして
くれてありがとう！
少しでもやることを探してみたいと思いました。
どうにかして もっと多くの人に NPO を身近な
ものにして 少しでも支援してほしいと思いました。

Learning by Giving-あなたの寄付先を子どもたちが決める。その寄付に3倍のチカラを

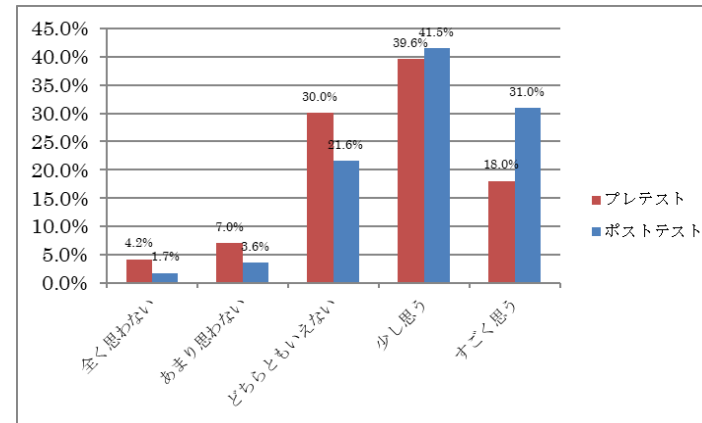
社会貢献教育プログラムの成果評価

社会貢献活動をやってみたい、社会貢献が世の中に役立つ、どちらも授業後「そう思う」割合が増加

左：社会貢献活動をやってみたい

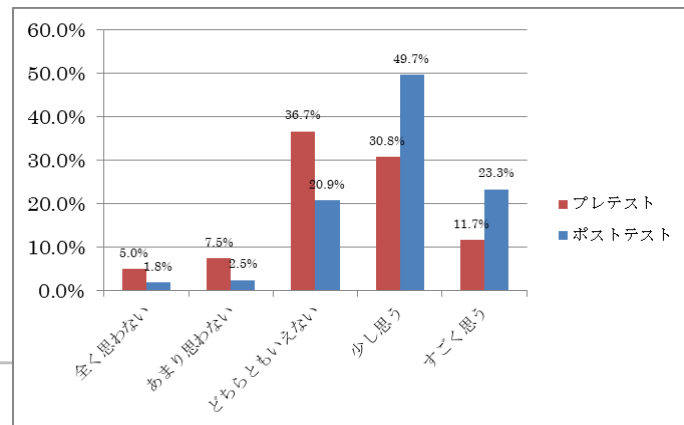


右：社会貢献が世の中の役に立つ

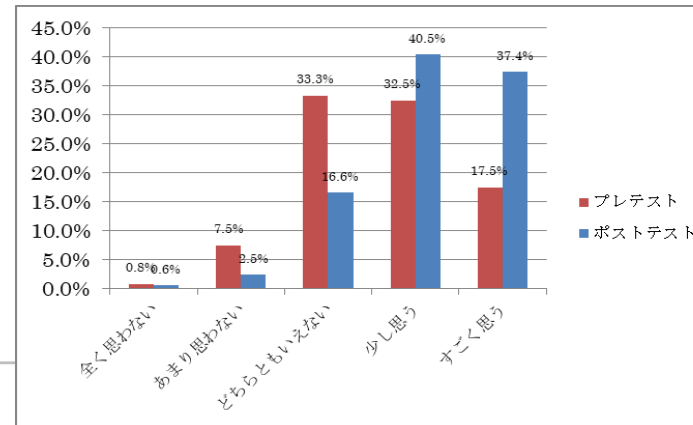


寄付をやってみたい、寄付が世の中に役立つ、どちらも授業後「そう思う」割合が大幅に増加

左：寄付をやってみたい



右：寄付が世の中に役立つ



Learning by Giving-あなたの寄付先を子どもたちが決める。その寄付に3倍のチカラを

お申込みから完了までのプログラムのステップ

①webお申込み
弊協会の該当
ページからお申
込みをして頂き
ます。

②事前の審査
実施体制など
についてヒア
リングをさせ
て頂きます。

③事前打ち合わせ
実施に向けて、2
回程度のオンライ
ン打ち合わせ。

④プログラム実施
プログラムを実施。
詳細は次頁参照。

⑤終了後・御礼報告
学びの報告をまとめ
寄付者への御礼を行
います。

ステップ②【候補校の選定】

6月末までの希望校・団体と寄付金額をベースに、7月初旬に日本ファンドレイジング協会LbG企画検討委員会で第一次候補校・団体の決定。当該校および団体と詳細の検討を行い、十分な準備期間を設けた上で先方事情を踏まえて8-9月に開始予定。当初2-3件はファンドレイジング協会スタッフが主体的にリードし、複数名の社会貢献教育ファシリテーターがサポート参加予定。7月末までの寄付募集状況を踏まえて、8月に第二次の候補校、団体、主催企画を確定し、社会貢献教育ファシリテーター（上記のサポート参加経験者）主体的に担ってもらうパターンも実施。

ステップ③【事前打ち合わせ】

・事前の企画の調整や打ち合わせに、担当の教諭・団体担当者だけではなく、参加する子どもたちの代表者もまじえた企画検討会を開催し、企画の内容や運営方法について子どもたちのアイデアを盛り込む。

ステップ⑤【プログラム終了後】

・企画終了後の社会貢献教育ポータルサイトへの掲載記事については、生徒の協力を得て生徒が主体的に他校の生徒にコツやポイント、成果を説明することを推奨する

プログラム詳細

①社会貢献を知る

社会貢献について対話的に考えるワークショップを実施。NPO情報の提示。



所要時間：2時限

パートナー（予定）：

社会貢献教育ファシリテーター、教諭

②どのNPOへの寄付が有効か

実在のNPOを対象に、どのNPOに寄付することが有効か調べ学習。



所要時間：3時限

パートナー（予定）：

社会貢献教育ファシリテーター、教諭
支援先NPO

③結果発表

グループごと考えた結果を全員の前で発表、どこに寄付するか決定



所要時間：1時限（目安）

パートナー（予定）：

社会貢献教育ファシリテーター、教諭
支援先NPO

この実践を…

1. モデル授業プログラムとしてで実施することで、**社会貢献教育ポータルサイトを通じて全国に取組みを発信**します。
2. **主要メディアと連携**することで、広く外部に向かって取組みを発信していきます。

教員の役割

〔事前〕 学校ないし学年の取りまとめ。

〔プログラム〕 授業進行への協力サポート（教材のご用意（印刷）、事前事後アンケートの実施、生徒への促しなども含みます）、プログラムとプログラムの間での課題のリマインドのサポート

〔事後〕 報告書作成への生徒の感想振り返り取りまとめ、教員自身のフィードバックの提供

社会貢献教育ファシリテーターの役割

〔事前〕 打ち合わせへの参加、プログラム進行準備。〔プログラム〕 全体の進行と適切な内容の提供

〔事後〕 報告書の取りまとめと作成

プログラム詳細

【事前】候補団体のリストは当方が提示しますが、これ以外の団体（地域の団体など）を生徒が主体的に提案することも可能です（ただし、情報公開性、信頼性、活動報告の可能性などの一定要件でのチェックを行うことを推奨しています）

①【NPO情報の提示】団体の基礎情報を提供

②【寄付先議論】候補団体についての生徒自身の自宅学習（予習）とグループ内共有→各NPOの動画視聴→視聴を受けた検討、合意形成

③【結果発表】グループ発表して全体で討議。決定後、各自の振り返りシート記入とNPO・支援者へのメッセージ作成

【事後】後日フォローアップセッションとして、当該団体から報告オンライン会議・ビデオメッセージセット／サプライズで寄付者のビデオメッセージ（※希望がある場合）

【事後】上記プロセスの全体概要について報告（JFRA,社会貢献教育ファシリテーター、担当教諭）

【事後】成果評価のモデルについても予め設計し、変化状況を評価する仕組み、経験した教員・主催者の体験共有の場・つながり創出を行うことで質の改善を多角的に実施。

※プログラム全体の留意事項や学びの成果を増すための取り組みについては過去に社会貢献教育、Learning by Giving型の企画にご協力をいただいた教員、生徒の意見をヒアリングし、アドバイスをいただいたうえで設計予定。

寄付先NPOについて

- ・新型コロナに関連した寄付募集をしている団体で、かつ、継続的にその社会問題に向き合っていること。
- ・情報公開性、活動実績、信頼性に問題がなく、かつ、本企画に賛同して子どもたちの学びにつながるコミュニケーションができること。
- ・授業へのオンライン参加（ビデオインタビュー含む）の可能性があること。
- ・寄付金の活用報告についてのビデオメッセージの提供が可能であること。
- ・最大5分野程度から各1団体を上記条件に諮り選定。→最終的な選択肢は3団体程度。提示パターンは、分野で括る形や分野で分けるパターンもあり得る。

【実施に関する注意事項および免責事項】

- ・ 申請校すべてが実施できるわけではありません。
- ・ 実施決定した場合は、文書で正式通知を行います。その前の打ち合わせでは確定しません。
- ・ 正解のない学びのプロセスのため、深い気づきを得る生徒と、自分の意見が反映されずに満足度が低い生徒がうまれますし、結果に納得しない生徒も生まれます。しかし、そのもやもやした「問い」を心の中に持つことこそが大事な学びであると考えているため、参加者全員の納得感・満足度を保証するものではありません。
- ・ 寄付金の受け渡しについては、弊協会の口座から確定団体の口座に振り込まれます。学校がこのプロセスに関与することはありません。
- ・ 上記の他、弊協会の判断により項目を追加させて頂く場合があります。

お問合せ

認定特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会
105-0004
東京都港区新橋5-7-12 ひのき屋ビル7階
担当：大石俊輔

TEL	03-6809-2590
受付時間	平日9:00～18:00
E-mail	ohishi@jfra.jp